

タウンミーティング記録 未来に向けて 今、ここから

日 時 令和6年11月30日(土) 午後2時～3時30分
場 所 上福岡四丁目集会所（上福岡四丁目町内会）
参加者 28人



主な意見等

参加者 新聞によると、全国の高齢者の20%超が一人暮らしをしています。上福岡四丁目においても、役員の担い手不足が深刻化しています。民生・児童委員等の推薦も難しくなる中で、市はどのような対応を行うのでしょうか。

市長 担い手不足については私も痛感しているところであり、自治組織の加入率が低下している点が一番の問題点であると考えています。自治組織に加入するメリットを見いだせない、また、夫婦共働きや、子育てで忙しいため、休日は自分たちに使いたいといった思いがあり、自治組織に加入していただけないケースもあります。地域で助け合って暮らしていくという以前からの考えが、時代の移り変わりの中で若い方々の価値観も違ってきているのも事実です。

しかし、自治組織がなければ全て行政が担当し、皆さまが納めていただいた税金で負担をすることになります。自分たちでできることは自分たちで行えば、その分の税負担が下がります。一方で社会保障は右肩上がりになっているため、道路整備や公園の草刈りにしても、以前より同じ頻度でできなくなりました。

あるタウンミーティングの会場で若い方がお見えになり、その方は町内会とは関わらないようにしていましたが、ある時、災害現場にポ

ランティアに行った際に、公的機関の職員が誰もいないところで地域の方たちが一緒に汗を流して土砂や瓦礫をどかす光景を見たときに自分は間違っていたと気づき、自治組織に加入をしました。さらに市役所の職員にはもっと若い世代が加入するように働きかけてほしいと発言をしてくれ、私はとても嬉しく思いました。

高齢者が近所を散歩するだけでも防犯対策になっています。全てにおいて、地域の皆さんが助け合っていることが大切だと思います。連合会の方々と市が一緒になって運営しやすいかたちに持っていかねばならないと考えています。今後も市役所も一体となって加入率を上げる取り組みを行ってまいります。

参加者

ふじみ野市議会にて、「自治組織集会施設審議会から地域の判断を前提に、将来的に集会施設を市に移管するほうが望ましいと意見をいただいております、最善の方法を検討する」と発言がありました。このような話は寝耳に水であり、議員の言動で方向性が決められるのは自治組織を軽んじているのではないのでしょうか。

それから、空き家が増加しているのもその対策について、西公民館と駅方面に向かう横断歩道上に停車する道路交通法違反について、写真を撮ってきましたので、後ほどお渡しします。（他に、西公民館に隣接する家の樹木がひどい状態である。道路にはみ出している樹木について市報で注意喚起の記事が時々見られるが、記事が小さくて市民に浸透していない。また、要介護者がいる家族への支援についての要望をタウンミーティング終了後に書面にて提出）

市長

集会施設のあり方については、合併当初は、上福岡地域は市が用意した土地が大部分であり、そこに地域の皆さまが寄付金を集めながら、自分たちの力で会館を作ってきました。公民館の分館を払い下げ、無償で使っているところもあります。ところが大井地域は、公的に作った建物を複数の町内会が共同で使用していました。これは上福岡地域の住民からすると、大井地域は全て役所が建てた建物なので管理費用がかからないとご不満を持たれておりました。そのため、当時は町内会の補助金に光熱費等を上乗せしており、現在はさらに増やしているところですよ。

地域ごとのバランスを近づける一環で、約8年越しで、自治組織連合会の会長、副会長を務めた10名で準備会を作りました。そこでは様々な意見交換を行い、そのプロセスは自治組織連合会の総会など

で、私のほうから都度お話をさせていただいており、大方の会長はご理解をいただいているものと思われます。しかし、自治組織連合会からそれぞれの地域の会長へのフィードバックについては私が触れる立場ではありませんので、連合会の方々にお伝えをしていただければと思います。連合会もそれぞれの力で運営しており、それをサポートするのが行政の役目だと考えていますので、ご理解をいただきたいと思ひます。

現在第2次の審議会が進められており、将来的には旧上福岡地域の民営の会館を市に移管することができるかたちを取っていくべきではないかという議論がなされています。そうなった場合、行政が土地と賃料を負担していますが、皆さんの力で作られた建物を行政の名義に変更すれば、修繕や建て替え費用も行政が持つことが可能になります。実際にお使いになるのは地域の皆さまですから、今までと形態は変わりません。また、勘定の面でいうと、建物を市に移管するかどうかは皆さまの意思に委ねるものですので、行政が吸い上げるということではありません。そのため、勝手に決めているという感覚ではないものと認識しています。自治組織連合会からご連絡がいかない点は私たちの管轄外になりますが、現在進んでいるプロセスについて、皆さまに不利益が及ぶことは一切ないと信じている次第です。

参加者 市道の舗装が劣化しており、高齢者がシルバーカーを押して歩きにくい状態になっている。対策をお願いしたいです。

市長 この実態は市内の各所で起きています。バリアフリー化は簡単に進められるものではないのですが、バリアフリー化に向けて、歩道の段差をなくすかたちでなるべくフラットにするように現在も整備を進めているところです。しかし、昭和40年代～50年代頃に作られたものが多く、まち全体をフラットなかたちに持つていくには時間がかかると思ひます。私たちも実態は理解していますので、ご提案の内容は担当へ伝えさせていただきます。

参加者 市内循環バス（ふじみん号）について、上福岡四丁目に停留所ができない理由を教えてください。

市長 公共交通については地域公共交通活性化協議会という組織を作っており、陸運局や民間のバス会社やタクシー会社、自治組織連合会の代表者などから構成されています。しかし、小型のワゴン車に変更したにもかかわらず、細かい道路まで入っていけないのが実態でござい

ます。この状況を補完する意味合いで、民間のタクシー会社と協働し、おでかけサポートタクシーを展開しています。運賃の半額で利用でき、市内限定の運行だったものを現在は2市1町までエリアの拡大を行いました。その影響で遠方へ行ってしまうと戻って来るまで時間がかかってしまい、配車依頼してもなかなか来ないという課題を抱えています。使い方を考慮いただきながら活用をお願いできればと思います。ふじみん号についても、将来的なサービスの拡張は課題であり、頭に留めたいと思います。

参加者 水道水に発がん性が懸念されるPFAS（有機フッ素化合物）が含まれている可能性があるという全国的な話題となっています。ふじみ野市の水道は問題ないのでしょうか。

市長 他自治体でも話題に上がっていますが、ふじみ野市については規定値よりかなり低い数値でした。全く問題ございません。

参加者 上福岡四丁目の道路はとても狭いです。双方向から自動車があると高齢者は機敏に動くことが難しいため、例えば一方通行にすれば高齢者も通行しやすくなると思います。

市長 一方通行にすると、双方向からは来なくなります。通りやすくなった分、自動車の台数が増える傾向にあると言われていています。また、すれ違いがない分、速度が上がりやすいというデメリットもあります。一方通行によって便利になる道とならない道があるため、今回のご提案は職員と検討させていただきます。また、一方通行の規制をかける際は、面している沿道の住民からのご理解を得なければなりません。そのため一方通行の設定後にやはり戻りたいとなっても難しいため、慎重に検討を重ねてまいります。

参加者 先ほどふじみん号は上福岡四丁目に入って来られないとお話がありましたが、幼稚園やケアセンターのバスは入ってきています。車の大きさは変わらないはずなのに、なぜふじみん号は入って来られないのでしょうか。

市長 バスの大きさではなく、循環コースの設定上の問題で入って来られないということでございます。他地域の住民からも停留所を作ってほしいというお声をいただきますが、ふじみん号は台数が限られています。利便性を上げるために台数を増やすといった取り組みを行っていますが、どうしても循環コースに含まれない地域が出てきています。前回のコースの見直しでは、これまで行ってなかった地域が経路の対

象にもなりました。しかし、台数を増やすと運転手の確保が必要になります。また、県道だと路線バスが通っているため、民間事業者のお客様を圧迫しないようなかたちで地域のご要望を汲み上げているところです。今後の検討とさせていただきます。

参加者 杉並クローバー公園で遊んでいる子どもたちがビニール袋を持っていました。理由を聞くと、普段お世話になっているから掃除をしたいとのことでした。そのような話を聞くと嬉しく思います。

市長 素晴らしいお話をありがとうございます。そのようなことがこれからも増えていくまちであってほしいと思います。

参加者 杉並クローバー公園は防災上重要な場所ですが、案内板が非常に見にくいです。公園に来た人がはっきりと分かるように改修をお願いしたいです。

市長 公園は可能な限り見通しがきくかたちを取っていくというのが近年の基本的な考え方です。そのため、先程の通り防災面において非常に重要な施設でありますため、市民にお伝えするという意味においても見やすい場所に案内板を設置することが望ましいです。公園や防災の担当と確認します。

参加者 ふじみ野市には大型のジム施設がないように思います。高齢者向けの施設はありますが、それ以外の年代が使用できるような環境を整備してほしいです。

市長 他自治体では体育館に併設されているところもありますが、マシンジムを設置するという考え方が、行政としてそこまで必要としていないという実態があります。市役所内に小さいジムはありますが、税金で運営している以上、難しい面もあります。検討させていただきます。

参加者 体育館などの空いている施設を利用するなど、方法はあると思います。

市長 スポーツ協会からも体育館の空きスペースを活用するという考え方は示されておりましたが、健康づくりの概念の中でそのような環境づくりを行うことは重要であると考えています。これまで取り組んでいなかったのは、マシンジムより有酸素運動の必要性を重視した結果であると思います。

参加者 有酸素運動は高齢者にとっては必要ですが、ジムに通っている方々はジムの良さを知っているため、需要はあると思います。

市長 ご意見として承ります。

参加者 市が出しているオールふじみ野市民スポーツフェスティバルの補助金を各自治組織に配布して、運動器具の購入費用に充てたほうが効率的ではないかと思います。以前より相談していましたが、聞く耳を持たない状況です。参加をすれば補助金が出ると聞きましたが、上福岡四丁目は不参加のため不公平感を持っています。このような状況を放置している自治組織にも問題があるように思えます。

市長 市から補助金を出していますが、それぞれの自治組織に対する補助金については、別の考え方になると思います。また、スポーツフェスティバルは自治組織連合会が企画しているため、会長が集まる場で発言された方がよろしいかと思われます。今回の話をご意見として連合会に伝えることはできますが、市の立場としての回答は致しかねますので、ご理解いただければと思います。

参加者 町内会で防災訓練を行っています。しかし、高齢化が進む中で、被災時に支援する人手の不足に不安を感じています。そこで地域の中学生を活用するという事は考えていますか。また、中学生を含めた防災訓練を3年に一度実施すれば、学生も経験できますし、地域の人たちと関わりあえる環境ができると思います。

市長 合併前は緊急車両を見せるだけといった劇場型の訓練を行っていました。しかし、それでは意味がないということで、ふじみ野市の総合防災訓練は県内でも珍しい全市的なものとなっており、福岡中学校の生徒にも参加していただいています。

災害は発生するタイミングで状況が大きく変わります。もし平日の日中に被災した場合は、若い世代はお勤めで不在になるため、地元の中学生が最も大切です。中学生には、来てほしいとお願いするのではなく、スタッフとして参加してほしいという呼びかけをすれば、やりがいを感じてもらえるかと思います。また、スポーツフェスティバルのような地域の方々が一堂に会する機会にも中学生に参加していただいております。さらに参加する機会を増やすように力を入れてまいります。しかしながら、地域への参加についてお考えのある保護者様もいらっしゃるため、慎重に検討を重ねてまいります。